

## 2. 法人会版健康経営宣言書「青年部会」用

(2022年6月29日現在)

単位会名 (所属県連名)		北那覇法人会法人会		( (沖縄県連) 県連)		
部会長 氏名		宮城 敦				
部会長 携帯番号						
部会長 メールアドレス						
単 位 会 情 報	事務局所在地	〒902-0068 沖縄県那覇市真嘉比2-5-3				
	担当者(事務局員)名	東恩納 寛康				
	TEL	FAX	098-884-4408	098-887-0119		
	メールアドレス		<a href="mailto:info@kitanahahojinkai.com">info@kitanahahojinkai.com</a>			
	部会員数		134名			

### 健康づくりの取組目標・取組内容

健康経営宣言 (目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会と繋がり「結い(協同)」の精神で、健康経営を推進します。</li> <li>・地域団体と連携し、租税教育やキャリア教育、福祉活動を通して社会貢献しながら、心身共に健康保持を実現していきます。</li> <li>・沖縄県と連携し、県内企業・経済団体への健康経営の普及・啓発活動を行います。</li> </ul>
実施している活動を 該当するカテゴリー に記載ください。	<p><b>1 フィジカル (身体的) 部門</b>…運動や身体的な改善内容等</p> <p>部会でのゴルフコンペやボーリング大会を開催し、会員同士の親睦を深める。 ※ウォーキングキャンペーン期間中の歩数によるハンデキャップを導入し、楽しみながら日頃の運動を促進していく。</p> <p><b>2 メンタル (精神的) 部門</b>…社員のメンタルヘルス対策や職場環境改善等</p> <p>健康経営エキスパートアドバイザーによる勉強会を開催し、職場の環境改善に繋げる。 また会員企業の「うちなー健康経営宣言(法人会版健康経営宣言と合わせて)」申請をサポートし、沖縄県・関係機関の各種支援情報が各職場に届く流れをつくる。</p> <p><b>3 ソーシャル (社会的) 部門</b>…地域貢献活動やボランティア活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉協議会とパートナーシップ協定を締結し、①コロナによる行政からの物資提供家庭への置き配サポート、②「見守り隊」を結成し、地域の青少年育成運動を行ないながらウォーキングを行なう。</li> <li>・沖縄県・関係機関と連携して健康経営を推進。①本青年部会の取組事例を県の広報誌(3,000部)に掲載、②県内でも2団体のみ認定「うちなー健康経営推進団体」として宣言を行い、県内企業・経済団体への健康経営の普及・啓発を図る。</li> </ul>

(下記の該当項目にチェックを入れてください。)

- 全法連ホームページ及び内部資料に単位会名を掲載することを承諾します。

上記のとおり申し込みます。

2022年6月29日

単位会名：公益社団法人 北那覇法人会

(押印は不要です。)

部会長名：宮城 敦

企業名	北那覇
申請者名	仲嶺 道人
(申請者名) カナ	ナカミネ ミチト
申請者の役職名	総務委員長
カテゴリー	3
活動のタイトル	人・地域・心を結ぶ健康経営！
活動期間の始期（年月日）	44743
活動期間の終期（年月日）	45107
参加人数	135
活動内容について	<p>1 健康経営推進体制の構築●青年部会の活動を親会にも展開。北那覇法人会の健康経営の推進体制構築に向け、親会トップ(会長)への情報提供と説明。●理事会にて健康経営の説明会を開催。青年部会の活動共有。2 会員企業とその家族を含めた交流・健康づくり推進●ウォーキングキャンペーンとゴルフコンペを開催し、会員同士の親睦を深めながら健康づくりを推進。青年部会から始まったウォーキングキャンペーン企画を親会と連携し実施。●ウォーキングキャンペーン期間中に会員及び家族参加のビーチクリーン&amp;BBQを開催し、家族の方々にも青年部としてどのような活動をしているのかを知ってもらう機会を創出。3 組織内外への健康経営推進団体宣言の発信●沖縄県主催の健康経営フォーラムの「うちなー健康経営推進団体宣言証 交付式」にて親会トップの会長が北那覇法人会として健康経営を推進することを県内企業や行政など関係機関へ宣言。●北那覇法人会の上部組織である(一社)沖縄県法人会連合会が主催する新春講演会および新春会員交流会にて青年部会の活動事例を紹介。●沖法連青連協サミットにて、県内法人会の関連5団体の青年部会役員へ向け、青年部会活動事例を紹介。</p>
アピールポイント	<p>●青年部会から親会に展開。継続的な取組にする為、健康経営の推進体制を構築健康経営の活動を青年部会だけに終わらすのではなく親会にも展開。継続的な取組にするため、親会(理事企業・厚生委員・支部役員)の皆様含めた健康経営の推進体制を構築中。ウォーキングキャンペーン企画では親会・青年部会を合わせた初の健康経営タイアップ企画を実施し、参加者数も増加。●部会員から家族にまで活動を拡げ、SDGsの一環としてビーチクリーン活動も実施部会員の家族も一緒にウォーキングをしながらビーチクリーンを実施。●行政・関係機関との連携、各種取組を社会へ広げるため情報発信沖縄県とも連携しながら、県内の健康経営の普及・啓発に向け発信活動を行う。各種取組を県内へ広げるため、地元地方紙・新聞へのプレスリリースを実施。</p>
活動の成果	<p>●県内経済団体への健康経営推進の波及効果うちなー健康経営推進団体【2団体(R4年6月時点)】→【8団体(R5年6月時点)】 昨年6月、北那覇法人会は、県内初の健康経営推進団体として読谷村商工会と並んで【うちなー健康経営推進団体】となった。その後、那覇商工会議所、北谷町商工会、沖縄商工会議所、浦添商工会議所、豊見城市</p>

	<p>商工会、宮古島商工会議所が推進団体となり、現在 8 団体になるほど波及効果が出ている。●ウォーキング参加者数前期 【 2021 年 7 月～2022 年 6 月 】 ※青年部会のみ第 1 回(2021 年 10 月) 43 名(青年部会)第 2 回(2022 年 2 月) 55 名(青年部会)第 3 回(2022 年 6 月) 63 名(青年部会)今期 【 2022 年 7 月～2023 年 6 月 】 ※青年部会+親会第 4 回(2022 年 10 月) 98 名/13 支部(青年部 67 名、親会 31 名)第 5 回(2023 年 2 月) 212 名/19 支部(青年部 45 名、親会 167 名)第 6 回(2023 年 6 月) 21 名(青年部会のみ)・ゴルフコンペ 1. 令和 5 年 10 月 25 日 20 名 2. 令和 5 年 3 月 10 日 20 名 3. 令和 5 年 5 月 17 日 20 名 4. 令和 5 年 7 月 12 日 28 名・ビーチクリーン令和 5 年 6 月 25 日 43 名参加(内ご家族、子供たち 21 名)</p>
<p>財政健全化への貢献度</p>	<p>・浦添市都市公園指定管理者「ゆいまあるてだこパートナーズ」との連携</p>
<p>部会員企業への浸透度</p>	<p>《健康経営優良法人 2023 認定企業》●【ブライト 500】 : 興南施設管理株式会社●【中小規模部門】 : 株式会社徳久グッドビズ●【中小規模部門】 : 株式会社東設計工房※【中小規模部門】 : 株式会社リウデン/優良法人 2023 より認定※【中小規模部門】 : 光電気工事株式会社/優良法人 2023 より認定《健康経営を職場で推進中の企業》●株式会社小禄運輸※新たに他会員 2 社が、沖縄県の職場の健康力アップ推進業務の【健康経営推進プログラム】支援に申請し、健康経営の推進強化に向け準備中。</p>

吉村アドバイザーフィードバックシート

吉村健佑氏：精神保健指定医・労働衛生コンサルタント・公認心理師・  
千葉大学医学部附属病院 特任教授・産業医・  
全法連青連協健康経営プロジェクトアドバイザー

対象：ファイナリスト単位会・部会員企業

【単位会】

	良かった点・評価できるポイント	今後の取り組みに向けてのアドバイス
北那覇法人会 (沖縄・沖縄)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動が幅広で多くの方が色々な角度で参加できるように活動している</li> <li>・部会員から家族につなげている。家族も社会保険上は同じ保険者で支えているので、家族の健康向上は重要なポイントでもある</li> <li>・経済団体への健康波及効果（団体数の増加）やウォーキング参加人数の増加など、数値化。モニタリングし数値化しようという視点が良い</li> <li>・部会員企業への浸透度として、ブライト500など、健康経営優良法人の認定基準にトライしている点</li> <li>・地元紙、新聞へのプレスリリースは重要なアプローチで素晴らしい。ここでの経験ややり方といったものを、フィードバックする、他の地域にも教えてあげるなどすると地域に対する貢献として大きい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろやっているがポイントが絞りが切れていない印象も。幅広の活動の中で、どのあたりに一番力を入れているのか、入れていきたいのか、効果に繋がっているのかななどをより明確にしても良いと感じる</li> <li>・地域資源とか参加者の時間も限られていると思うので、ここについては効果が高いので拡張する、広げる、ここについては参加者も少ないので、発展的に解消していくということも、今後検討しても良いかと感じる</li> <li>・ビーチクリーンなど、それによる活動量測定、そこからの運動量換算や効果測定も見える化しても良いかも</li> <li>・参加人数も多いので、全体としてどれぐらい効果(売上増加の総量など)があったのか。いきなりは難しいかもしれないが、例えば各事業者のプレゼンテーションや労働生産性、参加することにより、上司とのコミュニケーションが向上したとか、同僚からの支援・サポートが得られるようになったとかなどの効果でもよい。それによって離職者が減る、メンタルヘルス不調者の減少など健康を実感する人が増えたとか、定期的なモニタリングなど測定ができるとかなり説得力が増すと思う</li> </ul>